週刊教育 PRO
平成 23 年 2 月 15 日付　掲載

大学ブランド

〝庄内柿〟を使った新商品を開発、販売

東京都市大学

東京都市大学（東京都世田谷区、中村英夫学長）の都市生活学部と社団法人酒田観光物産協会（山形県酒田市、斉藤成徳会長）は二月四日～六日の三日間、同市の特産品でもある「庄内柿」をテーマに、女子学生の企画チームと地元の食品加工製造チームが共同開発した全十六商品の販売イベントを、東京・銀座の山形県アンテナショップ「おいしい山形プラザ」にて実施、開発に携わった同大学の女子学生らが店頭販売を行った。

平成二十一年に内閣府が選定した「地方の元気再生事業」で、同協会が同学部と東京都立晴海総合高等学校（東京都中央区、斉藤光一校長）と連携、地元企業二十団体も参加する。女子大学生六名と女子高校生十一名が、三班に分かれて商品を企画開発。これまでに品評会や試食会などを行ってきたが、更に改良を加え、今回に至った。

既に酒田市観光物産館「夢の倶楽」では販売がスタートしており、同大学の等々力キャンパスにおいても、一月十七日～十九日の間での販売イベントを実施、好評を博した。

店頭には、干柿と柿の餡を酒田の出羽の餅でくるんだ「庄内柿大福」（一個＝百六十円）、ジュレのように軟らかいあんぽ柿の「柿ジュレ」（三個入り＝七百十五円）、ドライ柿をスライスした「柿ジュレップ」（二袋入り＝五百円）などが人気で、販売開始前から商品を手に取る人々で賑わっていた。

登坂俊二・同協会総支配人は「首都圏において〝庄内の柿〟としてのブランドはまだまだ認知度が低い。これらの商品をきっかけに販路を拡大できれば」と話していた。

ジュレのように柔らかいあんぽ柿

開発に携わった女子大生

●無断転載禁止
●著作権は週刊教育 PRO に帰属します
●転載承認済

東京都市大学グループ
学校法人 五島育英会